

## 2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日2007年 1月 26日

## I 概要

実践団体・担当者名	東邦高等学校 (担当者：岡田 保 )	
連絡先	052-782-1171	
プランタイトル	総合学習 防災講座「災害は忘れた頃にやってくる」	
目的	災害時に「自分の身は自分で守る」ための知識・力量を身につける。 災害弱者に対して若者の果たす役割を理解し、地域で行動できる人材の育成。	
プランの概略	3年生の総合的な学習の時間(2単位)の講座のひとつとして、希望選択した生徒約30名に授業を行う。前期(1学期)と後期(2学期)では異なる生徒を対象とした授業。 今年度は木曜日の午後の開講となったが、行事・休日との関係で、前期は8週間、後期は11週間と変則的になった。	
プランの対象と参加人数	3年生普通科の生徒(選択希望調査の結果を参考に調整される) 前期：28名 後期：29名	
実施日時	前期(4月13日～ 6月29日) 後期(9月 7日～12月 7日)	
主な実施場所	東邦高等学校3年M組教室	
連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	(有)
	連携した団体名	① 名古屋市消防局防災課、名東消防署 ② 平和が丘学区協議会
	連携したきっかけ・理由	① この講座を開講するきっかけとなった本校の防災マニュアル作成時点でご指導をいただいた。 ② 本校の立地する地域であり、日頃からさまざまな課題で連絡を取り合っている。
	連携団体へのアプローチ方法	① 上記の通り ② 上記の通り
	連携団体との打合せ回数	① 必要に応じて電話でご指導をいただいている。 ② 今年度の講座についてはご意見をいただくことはなかったが、防災について機会があるごとに意見交換をしている。
	連携団体との役割分担	① 心肺蘇生とAEDについては、名東消防署より最新のビデオをお借りできた。 ② この講座については今回はお願いしなかった。

## Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	1 名
	外部スタッフの総人数	1 名
	主なメンバーの 役職・役割	岡田 保（東邦高等学校理科教諭、東邦高等学校防災委員）  基本的には教務部の支援を受けながら岡田一人で企画・実践したが、本校元PTA会長の因田和夫氏（救命救急士）には、特に実習面でアドバイスをいただき、また直接ご指導もいただいた。
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	年 月 日 ～ 年 月 日
	立案時間	時間× 回 時間× 回
	上記のうち打合せ回数	回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学で理論を学ぶより、実践の中で体験させよう。</li> <li>・全国の諸実践の中から、できるだけ盗もう。</li> <li>・何よりも生徒の持っている力を引き出すことに依拠しよう。</li> </ul>	
プラン立案で 苦勞した点	上記3点を掲げたが、生徒に問題意識を持たせ、研究や発表の場とすること（総合的な学習の時間の本来の目的）については、まだまだ実践できていない。	

## Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	1 名
	外部スタッフの総人数	1 名
	主なメンバーの 役職・役割	岡田 保（東邦高等学校理科教諭、東邦高等学校防災委員）  基本的には教務部の支援を受けながら岡田一人で企画・実践したが、本校元PTA会長の因田和夫氏（救命救急士）には、特に実習面でアドバイスをいただき、また直接ご指導もいただいた。
準備に要した日 数・時間	準備期間	年 月 日～ 年 月 日
	準備総時間	時間× 回 時間× 回
	上記の内打合せ回数	回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	

地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	
	どのように働きかけたか	
	結果	
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	① ビデオ教材「伊勢湾台風物語」 ② ビデオ教材「その時歴史が動いた 百世の安堵をはかれ」 ③ ビデオ教材「あなたの勇気が大切な人の命を救う～」 ④ 実験装置「液化化現象」 ⑤ 実習材料「三角巾」 ⑥ 実習材料「ロープ」 ⑦ 非常食調理実習材料 ⑧ 教材ゲーム「クロスロード」
	入手先・入手方法	① すでに購入済み ② 2年前の放送時に録画したもの ③ 名東消防署より借用 ④ 今回作成 ⑤ 購入（昨年度は借用） ⑥ 購入（昨年度は借用） ⑦ 購入 ⑧ 購入
	機材・教材選定の理由(な ぜこの機材・教材を選ん だのか)	① 濃尾平野地域における最大級の災害であり、この地域で の防災について考える上でもっとも身近な教材 ② 災害対策で個人と地域との関係を考える良い教材 ③ 最新の情報 ④ 地層の液化化という現象を実際に視覚で受け止めること ができる実験装置 ⑤ 救助訓練の実施 ⑥ 救助訓練の実施 ⑦ 調理実習の実施 ⑧ 災害時の状況について体験者の講話は最もリアルである が、さまざまな状況がありまたさまざまな考え方がある ことを知るには良い教材
参加者の募集	募集方法	2年次の3学期に学年で一斉調査
	募集期間	年 月 日 ～ 月 日
	参加予想人数	約30名×2
	実際の参加人数	28名、29名
	募集方法の成功点	

	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		<p>中間報告で課題とした「心肺蘇生とAED」の実習については、名東消防署へのご相談の結果、本校所有のダミーを使用して本校教員による実習を行った。(2体のダミーを私と体育科の教員で担当し、生徒全員に通り体験させることができた) 昨年10月より変更になったAEDの使用基準に基づいた新作ビデオ(あなたの勇気が大切な人の命を救う～愛知早期応急手当プログラム…約42分)をお借りして使用した。AEDを実際に使ってみることはできなかったが、どういうものを理解する一助になったとは思われる。</p>

## IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月	06年度総合学習原案提示		
12月		2年生徒に希望講座調査	
2006 1月	防災教育チャレンジプラン申請		
2月		第3回防災教育チャレンジプランワークショップに参加 生徒の受講講座確定	
3月			
4月			4/13 第1週：オリエンテーション 4/27 第2週：ビデオ「伊勢湾台風物語」
5月			5/11 第3週：救助技術体験（三角巾） 5/18 第4週：地震災害＋ビデオ「百世の安堵をはかれ」
6月			6/ 8 第5週：救助技術体験（ロープ） 6/15 第6週：災害図上訓練（D I G） 6/22 第7週：クロスロード 6/29 第8週：災害体験講話＋まとめ
7月	総合学習担当者会議		
8月			
9月			9/ 7 第1週：オリエンテーション 9/14 第2週：名古屋地区の水害史 9/21 第3週：ビデオ「伊勢湾台風物語」
10月		10/21 中間報告会	10/ 5 第4週：東海・南海地震＋ビデオ「百世の安堵をはかれ」 10/12 第5週：救助技術体験（三角巾） 10/26 第6週：災害図上訓練（D I G）
11月			11/ 2 第7週：クロスロード 11/ 9 第8週：非常食に挑戦 11/16 第9週：救助技術体験（ロープ） 11/30 第10週：心肺蘇生とAED
12月		まとめ作業	12/ 7 第11週：災害体験講話＋まとめ
2007 1月	総合学習担当者会議	最終報告	

## V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	オリエンテーション		名古屋地区の災害史	「伊勢湾台風物語」
実施日	4/13	9/7	9/14	4/27 9/21
所要時間	50分	50分	50分	50分×2
達成目標	この講座の実施方法を周知し、講座の目標を知らせる。	その地域によって災害の種類も異なる。私たちの住んでいる濃尾平野について知る。	平野地域での水害の恐ろしさ、水害と戦ってきた歴史について知る。	当地で起きた最大級の災害である「伊勢湾台風」の被害について知る。
生成物				
進め方 (箇条書き)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当教員自己紹介</li> <li>2. 授業の進め方 (プリントによって勤める、ノートを作る事、班編成など)</li> <li>3. はじめのアンケート (生徒の意識を把握しておく)</li> <li>4. 濃尾平野の地図を描いてみよう</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時に描いた地図を実際の地形図と照らし合わせてみる。(濃尾平野の位置の確認)</li> <li>2. 指定した6つの地点の標高を当ててみよう。 (濃尾平野は西低東高となっている)</li> <li>3. 沖積平野に多い災害(津波・高潮・液状化現象 etc.)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 四刻八刻十二刻</li> <li>2. お囲堤と用水路・入鹿池</li> <li>3. 農民の知恵「輪中」</li> <li>4. 宝暦の治水と薩摩義士</li> <li>5. テ・レーケと三川分流</li> <li>6. 尾張の干拓事業</li> <li>7. 現代の水災害 <ol style="list-style-type: none"> <li>a. 伊勢湾台風</li> <li>b. 安八町 9.12 水害</li> <li>c. 東海豪雨</li> </ol> </li> <li>8. あなたの住んでいる地域は？</li> </ol>	アニメーション映画 「伊勢湾台風物語」 1989年作品 監督：神山征二郎 作画監督：北崎正浩
ツール(特に用意したもの)		20万分の一地形図	生徒自宅付近の航空写真 (インターネットで入手)	ビデオテープ
場所	3M教室		3M教室	視聴覚教室

タイトル	東海地震・南海地震について	ビデオ“百世の安堵をはかれ”	救助技術体験「三角巾の使い方」	救助技術体験「ロープワーク」
実施日	5/18 10/5	5/18 10/5	5/11 10/12	6/8 10/12
所要時間	50分	50分	50分×2	50分×2
達成目標	地震災害の基礎知識と、東海地震・南海地震の特徴について学ぶ。	災害時の個人と地域との関係について安政南海地震の事例から学ぶ。	災害時の実地演習としての三角巾の使い方を知る。	災害時の実地演習としてのロープの使い方を知る。
生成物				
進め方 (箇条書き)	<p>1. プレートの沈み込み口は地震の巣</p> <p>2. 地震にはそれぞれ周期がある</p> <p>3. 東海地震・南海地震の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶長地震</li> <li>・宝永地震</li> <li>・安政地震</li> <li>・昭和地震</li> </ul> <p>※ 液状化現象実験</p>	<p>NHKその時歴史が動いた“百世の安堵をはかれ”</p> <p>2005年1月放映</p>	<p>救命救急士 因田和夫氏による実習</p> <p>三角巾は、1. 傷口の被覆 2. 圧迫止血 3. 患部の固定</p> <p>をするもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角巾の畳み方</li> <li>・本結び</li> <li>・頭部の処置</li> <li>・腕のつり方</li> <li>・足首の固定</li> </ul>	<p>救命救急士 因田和夫氏による実習</p> <p>ロープの結び方</p> <p>結び(Knot)には、Bent, Hitch, Lashing がある。</p> <p>ロープワークの3原則</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. すばやく結べる事</li> <li>2. 結び目がゆるまない事</li> <li>3. 簡単に解けること</li> </ol> <p>8の字結び、もやい結び、本結び、一重つなぎ、二重つなぎ、二重もやい結び、三重もやい結び、海老結び</p>
ツール（特別に用意したもの）		ビデオテープ	三角巾各自1枚	ロープ(約3m)各自1本
場所	3M教室	3M教室	3M教室	3M教室

タイトル	災害図上訓練(DIG)	クロスロード	非常食に挑戦	
実施日	6/15 10/26	6/22 11/2	11/9	
所要時間	50分×2	50分×2	50分×2	
達成目標	実際に校内を歩いて防災地図を作り、身近な防災について考える。	災害時にはさまざまな状況が生まれ、そのつど判断を必要とすることを学ぶ。	非常食の調理を試みる。	
生成物			炊き出しご飯、乾パン料理	
進め方 (箇条書き)	<ol style="list-style-type: none"> <li>校内をまわって次の施設・設備のある場所を探してこよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>校長室・事務室・教頭室</li> <li>AED</li> <li>消火器</li> <li>水場</li> </ul> </li> <li>校内略図に記入し、危険な箇所・問題点はないか班で話し合う。</li> <li>各班からの発表</li> <li>講評</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実施方法の説明(約10分)</li> <li>各班でゲーム(約40分)</li> <li>ふり返りとまとめ(約50分) <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームの結果</li> <li>感想を記入させる。</li> <li>感想の発表(教員のリードで特徴的な意見を引出す)</li> <li>「防災ゲームで学ぶリスクコミュニケーション」も引用し、災害時のさまざまな状況について紹介。また、「人と防災未来館」の紹介もする。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>簡易炊飯袋を使って、ご飯を炊く <ul style="list-style-type: none"> <li>炊き出しご飯</li> <li>あずきご飯</li> <li>イモご飯</li> </ul> </li> <li>乾パンを食べやすくしよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>乾パンの団子</li> <li>カナッペ</li> </ul> </li> </ol>	
ツール(特別に用意したもの)		クロスロード	簡易炊飯袋・米その他の食品	
場所	3M教室	3M教室	生物実験室	

タイトル	心肺蘇生とAED		災害体験者の証言	まとめとふりかえり
実施日	11/30		6/29	12/7
所要時間	50分	50分	50分	50分
達成目標	心肺蘇生については1年次保健の授業でも触れているが、最新の方法について学ぶ	全員が一度は心肺蘇生の体験をする。	実際に体験した方の話を聞くことで、今後への参考とする。	1 学期間の講座の内容をふり返し、今後の自分達の役割を考える。
生成物				
進め方 (箇条書き)	<p>ビデオ「あなたの勇気が大切な人の命を救う」鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救命の連鎖</li> <li>・心臓停止に対する応急手当</li> </ul> <p>第1パート：倒れている人への対応</p> <p>第2パート：人工呼吸</p> <p>第3パート：心臓マッサージ</p> <p>第4パート：AED</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外傷に対する応急手当</li> </ul>	<p>2 グループに分かれて、交代で実習（体育科の教員に応援を依頼）</p> <p>1年次には保健の授業で取り扱っているが、「時間が足りないという理由で行なわなかったクラスもあり、また実施したクラスでもせいぜい代表生徒による実施であった。</p> <p>全員に一度はダミーに触れさせようという試みは一応成功した。</p>	<p>講師：加賀典夫氏の話</p> <p>すでに70歳代半ばと思われる方だが、背筋をピンと伸ばして、弟や親族を失った状況を語られる姿は、映画とはまた違った形で生徒の感動を呼び、自分たちに何ができるのだろうかという問題提起の場ともなった。</p>	<p>1. まとめのアンケート記入</p> <p>2. 感想の発表</p> <p>3. 教員から若干の補足</p>
ツール（特別に用意したもの）	ビデオテープ	ダミー2体		
場所	大会議室		3M教室	3M教室

## VI実践後

参加者へのアンケート結果	<別紙参照>	
成果として得たこと	<p>実施内容は基本的には前年度の踏襲であったが、「防災教育チャレンジプラン」と出会ったことにより、さまざまなスキル（液状化現象実験装置・クロスロードなど）を得ることができ、何よりも総合学習の原点（生徒に問題意識を持たせ、研究や発表の場とすること）を再確認できたことが私自身にとって最大の成果であったと思う。</p> <p>まだまだ内容としても講座の進め方としても課題を持ったままということに気付かされた。総合学習の時間が学内でもさらに合意を深めることができるよう、次の目標をもてたことが嬉しい。</p>	
成果物	<別紙参照>	
広報方法	広報した先	広報とは言えないだろうが、本校の Web サイトで紹介した。
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	上記「成果として得たこと」の項目に書いたことがすべて。いろいろと考えることの多い一年間だった。	
今後の予定	来年度以降の進め方	まだまだそこまで考える気力はない。すべては2月18日（第4回ワークショップ）が終わってから。
	是非実施してみたい取り組み	この報告書を書いていて、地域との連携が追及できていなかったなあと反省している。どんな形になるかは別として、まず地域の防災組織との話し合いを進めたい。

## 自由記述

2年前のこと、総合学習をスタートさせるに当たって、「目玉講座として防災講座を立ち上げてはどうか」という話が出た時、正直言っていやな予感がした。防災委員会がスタートした時点から、原案作成はほとんど私の担当だった。「防災については岡田に任せておけばよい。」とは誰も言わないが、私が提案しなければ前には進まない状態が続いてきた。

選択履修の防災講座という形ででも本校に防災教育が始まることは大切なことであつたし、できればこの講座での蓄積が全校生徒向けの防災教育につながることを願いつつ、孤軍奮闘を覚悟で防災講座をスタートさせた。

2年目になって「防災教育チャレンジプラン」というスポンサーが付いたという事実は、学外（しかも全国規模の事業）から評価を受けたという証であり、私自身にとっても自信となったし、これまでバックアップしていただいていた教務部にとっても、大きな励みになった。

防災関係の講座やシンポジウムなどへの出張にも出やすくなった。毎回案内文書が私のところに回ってくるので、若手教員に誘うようにしていたところ、研修に参加した教員を中心に青年部主催の防災研修会が開催された。若手教職員の中には関西方面の大学出身者など、阪神淡路大震災の体験者が何人かいるのだという。

「後継者作りも課題の一つ」と気にしていた私にとってこれは朗報、こうした青年教師達と複数体制で講座を持つことによって、さらに内容を改善していくことも可能ではないか。